

気をつけてほしい湿布のあれこれ

薬剤課 薬剤師 加藤 夏希



● 5月の救急医療機関 ●

平日

電話で時間外診療の協力医療機関
をお知らせします。
救急テレホンセンター
TEL22-2299

休日

【内科・小児科】

診療時間 8時30分～翌日8時30分
市立病院
TEL22-4311 (大町2-2)

【外科】

診療時間 8時30分～翌日8時30分
3日(日) 滝川脳神経外科
4日(月) 市立病院
5日(火) 滝川脳神経外科
6日(水) 市立病院
10日(日) 滝川脳神経外科
17日(日) 市立病院
24日(日) 滝川脳神経外科
31日(日) 市立病院
※市立病院
TEL22-4311 (大町2-2)
※滝川脳神経外科
TEL22-0250 (西町1-2)

【歯科】

診療時間 9時～12時
3日(日) フジタ歯科医院
TEL24-8211 (朝日町東4-1)
4日(月) 東鶉歯科診療所
TEL62-3368 (上砂川町字鶉323)
5日(火) あさひ歯科クリニック
TEL22-0033 (朝日町西1-6)
6日(水) 押尾歯科医院
TEL52-2811 (砂川市西2北3)
10日(日) とくだ歯科医院
TEL75-2056 (江部乙町西12-5)
17日(日) メープル歯科
TEL24-5800 (東町5-8)
24日(日) もじり歯科クリニック
TEL32-1181 (赤平市茂尻本町3-2)
31日(日) 砂川ファミリー歯科
TEL54-2020 (砂川市東1北3)

湿布は、病院で処方されるだけではなくドラッグストアでも簡単に手に入るので、気軽に使用されている方も多いと思います。今回はそんな湿布について気をつけてほしいポイントをお伝えします。

「スースーする」「じんわりと温かい」などの湿布から伝わる感覚が無くなったら、湿布をすく貼り替えていませんか？湿布の効果は半日から丸1日続きます。必要以上の貼り替えは、皮膚への負担を増やしたり、湿布をむだにしたりするだけで、効果的とは言えません。1日に決められた回数を守って貼り替えてください。

飲み薬に副作用があるのと同様に湿布にも副作用がありま

す。湿布は貼った所だけでなく効果を発揮しますが、貼った所から吸収された薬の成分は、少量ですが体中にも行き渡ります。湿布の種類によっては、1日に何枚も使用すると、飲み薬を飲んだ時と同じくらいの薬の成分が体に入ることになります。その場合は副作用も飲み薬と同じように現れる可能性がありますので、湿布の貼り過ぎにはご注意ください。

湿布を貼り過ぎなくても現れる副作用の中で、これから夏にかけて特に気をつけてほしい副作用に「光線過敏症」があります。光線過敏症は湿布を貼っている所に直接日光(紫外線)が当たることによって起こります。症状には、湿布を貼っていた所の皮膚が赤

くなる・ぶつぶつができる・かゆくなるなどがあり、ひどくなると体中に症状が広がるおそれがあります。光線過敏症を予防するためには、湿布を貼っている所に日光を当てないこと、日光に当たる機会を少なくすること(くもりの日も要注意)が大切です。さらに湿布をはがした後、少なくとも4週間は予防を続けることが重要です。ケトプロフェンという成分が入っている湿布は光線過敏症が起こりやすいので、ご使用の湿布の成分が気になる方は薬剤師におたずねください。

このように湿布にもさまざまな注意点がありませんので、これらに気をつけて湿布を安全に正しく使用してください。

○光線過敏症の予防方法

- ・サポーターで覆う
- ・長袖長ズボンで覆う
- ・日焼け止めを塗る